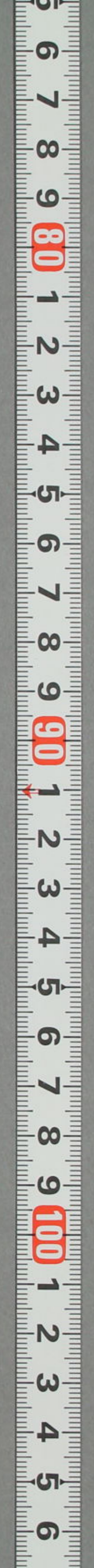




入初卷之四

舞

特別
凡全
3979
3



明 凡4
3979
卷 3



和州舊跡函考目錄

第三卷添上郡

- 真福寺まふくじ 付南大門みなみだいもん ○新修しんしゆ ○四座太史よざたいし ○佛生會ぶつじやうかい
- 中金堂ちゆうきんどう 釈迦しやくか ○東金堂とうきんどう 藥師やくし ○後戸ごこ 釈迦しやくか 三尊さんそん
- 西金堂さいきんどう 釈迦しやくか ○自然じぜん 涌出ゆしゅつ 觀音くわんおん ○南山堂なんざんどう 不ふ
- 空くう 冑けう 索さく ○銀ぎん 觀音くわんおん 于よ 躰たい ○日輪山にちりんざん 額がく ○北きた 山さん 堂どう
- 講堂かうどう ○維摩會ゐまかい ○五重塔ごじゆうたか ○月日宮つきひのみや ○東院とういん
- 西堂さいどう 事じ
- 眠宮ねみや ○三重塔さんじゆうたか ○般若石へんげいし 事じ
- 一言ひとこと 至いたる 社しゃ 付つ 木き 慈じ 樹じゆ ○真福寺まふくじ 再また 真まこと ○法相ほふさう 傳でん 本ほん



昭和二十七年
三月十八日

○仁明天皇のや齋集の賀事

中院屋

一樂院付定照僧都事

松室付仲葵已講事

八重栴

花林院

勸修坊

菩提院見觀音菩薩

大樂院付隆禪廟事

猿沢池付采女宮 ○楊貴妃栴事

轟橋

雲井坂

大和國右付 十五郡右 ○回教事

大和路付中津道

奈良

着楯

奈良大路

奈良坂般若路

般若寺付觀賢僧正

○再真 ○伐木禁刻夏

三間寧都婆

悪左存墓

奈良坂

奈良坂癩人

佐保川

佐保殿

梨子原付東大寺八幡太神新宮事

寧川坂本陵付韓國社事

寧川宮

寧川社付三枝祭事

寧川阿波神社

餅飯殿町

悲田院

誕生堂

元真寺 付 觀音事

極樂坊 付 智光法師

○曼陀羅事

仙光院

少塔院 付 護命僧正 ○法論味曾事

禪院寺

奈良飛鳥

奈良飛鳥川 付 福智院事

十論院 付 魚俵塚 ○南光院事

和川舊跡函考第三卷

添上郡

真福寺 寺領二万千百拾九石五斗余

真福寺又乃右山階寺也乃小吏山階寺大織

冠山城國守後郡小野郡山階の村陶原乃家

又居後一給ひ一対造受ありしより山階寺と

多しを所ましなり 帝王其時敏明天皇三年

書又乃説天智天皇即位八年嫡室鏡女王大織冠

の由之ありしとそらましと色あり 礼記 志ありて

後よ天武天皇白鳳元年の由と乃由之而郡

厩坂寺と尸 威衰 志あり

元明天皇和銅三年春日乃地より此より

漢海云乃造受ありてゆとり乃右殿ありしあり

福寺と書成表記六和洞二年とあり
皇三年より延寶七年迄凡千廿四年の和洞三
多より凡九百七十一年の五重堂儀乃法水は
依保川乃おぐき流を流しつり四所明神乃擁
護ハ三笠山の風可伐とよふ事也度毎の
炎上のあきどもひげしよつらぬ夢乃折又を
そとせしむ

南大門ハ二王像設とてり室めて新乃能
あり四座乃太史毎二月七日よりはせり
冒目よとり内史新乃能ハ弘仁十二年真福寺
乃東金堂廿八相乃花西金堂廿二相の花六
十種乃香花とつらり擁護乃祖神檀實の
法神と勸法とて信巻とらるは法舎すは

畫巻設つてとておぼく乃新とて記つり也
時りあり人西金堂乃陽あて露くおでける
と我と後清和天皇貞觀六年よりみせり
也流より貞觀十年乃事りとよえり
らりて風本設よりつらり山とて河とて
うごふ吹行来とて芝とひるぐ人乃大衆乃
之をより色をやくお乃り色行ハお流乃
成うが川とありつりて流元一川西金堂の
新よありとてそと多ハ南大門乃芝よけ
お舞しと吹りたに元よ飛尾と秋乃本乃
繁れみとてよとあり地よたあて榎は
葉乃のへぬとつらり色とて應と兵馬とて
りきとつらりもぞありきるおはつらり

家綱むむありとうれづく殿上にはあり奉り
くせんごんとほるを給ふ家綱めをせめば
家綱あくはる奉り記やうよそ入り海
とみく行綱めをせめば海とにさしげ
るりけり記とてひざ錢ももぞり記あげ
むそを記とてひざ記を記しげありと奉
よりみく衆の相けくさりみくし記は海
ちう相どりとありちうあざんとひひく海
十二三夜むりむりちうあそ入り上中下
大くごもみり奉り家綱ちうさつりハめ
きごも兄弟乃中さあ海くもあつとそあ
つらよらうゆり奉ると程星をむら乃申
ふあめぞ侍り後遠を連り後今の世乃
ありこりきりその時代とあらは中門ありて
四月八日佛生舎あり俗人乃樂あり儀を
乃海行りやふ

中金堂ハ釈迦如来ニ菩薩あり
基乃鐘樓ありは堂造安乃ハ皇極天皇元
年日本記十一月蘇我入麻山背大兄王子と
りありよりハ記月ハゆりよあくまぐ相れ
利我家誠宮嗣とハ子錢玉子あやしくハ又
送心不乃にあらうつら程ハ中太兄王子天智
中長鎌足とあげ記給ふ帝と輕玉子孝睦
乃入麻と鎌一給ふん乃ちりてハ錢め
給ふ又鎌足ありハ代とそハ太乃釈迦乃像
と所つらハ決ハ四月廿六日宮中ありハ

とうり給ふ新書は時乃さく日本紀よりいさよりの
 志く菴氏の繁昌あり父は遠足云乃造言ありは
 とて漢海云真後寺代とては新迦像とては
 所造より新書中金堂是なり相は新迦乃像
 乃みうしれうらよハ大織冠乃りとり乃仲よ
 相さめてつ子よ像給ひ根乃新迦三寸の
 像とあわさる帝王食堂ハ金堂同時り
 漢海云建立とぞゆえ
 ▲東金堂ハ神龜元年御願孔記威襄記 七月太上天皇
 天皇元正御怒乃時玉體安穩乃由乃り乃聖
 代天皇乃由建立薬師乃像とて給ひ
 新書よあり
 為堂乃後戸よ新迦三寸ハ靈傳あり監觸ハ

敏達天皇八年十月新羅國より相叱政奈未み
 此記をれりびよは三号とちるもみよは像
 甚靈あり是誠とみぬまよさつひ代のが
 是さいをひとら新着ありひがらよまばよさハ
 此代由ね記命代はめん日本 志あり
 帝敬崇供養海りて後ハ堂よま入ハ也後
 新書ハ号像ハ大織冠乃由中乃りて觀音虚空
 乃三号より孔記ハ佛ハ平度波斯王代
 り給ひく由一尺二寸拜見の人曰唯像ハ
 ぬ立臺山より流しなり其後而融乃西ま
 とみ給ひ次ハ新羅王是とやまひ給ひく後
 代國よとり給ひと獲我大臣よひけ
 里元真寺とてそくまそ安

光武の奇蹟後ありしを以て

西金堂八天平六年正月十一日光明皇太后

母橋云乃氏乃此の如く給ひぬ

釈迦如来二菩薩羅漢神王等乃像と云ふれ

身乃觀音代おぐまらむと云ふ

よ此橋上よ人由りて目乃國王乃辰光明子

元給ひく此後ハさあなりけ奉長下よ

ありそれハ群臣儀とて人ささるる人よあり

を辰又ゆ記給へきよありと云ふ

巧近と日本國よそり

巧近と日本國よそり

巧近と日本國よそり

光明皇太后我母君乃此の如く

を以て母と云ふく元此せよ則釈迦乃像

眉間乃玉と云ふと云ふは像との比く

とを以て給ひくは像作胸もさち感

よあまりて心やの如くと云ふと云ふ

此苗堂乃中を是あり極光明皇太后

又自極浦乃觀音乃像年家苗堂あり

は像ハむく傳法院の修圓僧都と云ふ

壽廣已彌と相からて尾張の玉あり

よ譽譽坂と云ふ所の玉あり乃池乃

已彌くと云ふあり此の如く

人ささるる又あまりて

程ふゆやあやしくしてふはあしく行ぬまは
回乃寺よ十一面観音乃像坐位よそあり乃
ゆえうはくともり記す人記す記上皆眞なり
てぞ南都よ入り乃先南大門よまはなり心
記是乃堂よゆを給ひるんや也大社金襴志
て金堂よりそめ殿記ひし記入もんとを
まぞも像持くあり給ひく千万人乃あり
まもくゆひはは魚う色あはむと堂毎よりく
へももりくともあり給ひは西金堂とゆふ
ぞひくありあがを給ひより西金堂よま
らまはるんとぞ 盛衰
▲南圓堂ハ弘仁四年よ遠立記不空胃索乃
ひよ回天王像記す人より書先ハ内磨乃はより

給ひ乃心あり 水又弘法大師はより給ふも
り 盛衰 胃索乃像ハ三月ハ臂丈六の七 礼記
た乃此磨よ康の皮紙けを給ふ春日大明神
磨乃あひし給ありその因縁を因へし
南圓堂乃盪觴ハ漢海云乃後悉議中衛大將
磨前そ乃子大納言ま猶その子右大臣内磨
乃三代と上二代乃とくはくもやあり乃内
磨乃子老嗣大臣藤原乃おとる人ねる奉成を
けはく弘法大師よあをましく真宿寺よ
南圓堂記す心乃り 正統 志あり
くれとも 記 傳殿はくはるよ弘仁三年
十月六日内磨六十六よしてうせは給ふあり
冬嗣先考乃心が紙す弘仁四年よ

遠くより祀順叔付地底に銀乃觀る乃像一
子縣とおけぬ詞林壇代三の記給ふは春日
明神老翁也現此史よ海より一首とて

い給ふ或裏

補陀洛の南乃翁堂とて此後み今とゆえ

は秋ハ魁乃ありてよあるとをいふ事はこれ

か一具春日明神乃使とて寧河明神部

ト給中と神中抄よいんころり又觀音乃淨土補

陀洛山の其山乃ころり八角めて友波常盤よ

ありそ乃山と表しては堂と八角よははて

より或裏 其後友氏繁矣乃よりころり新書

よあり房大臣ハ友氏田家のうらよわ家の

程よそありきる又あよして法毎舎行とて

いふる世と三年よ一度ありむくは毎九月

晦日よりめて十月六日よころりた肉磨る乃水

忌日ありあり公事根源よころりありは堂の

菰よ像よ菰田山といふあり是のむく真福

寺乃南大門よ目輪山乃額代けけりまよあり

志見事作りはまきば友ようはりより額代

也是也

北田堂ハ梅多隸佛室号代とて養老六年

八月三日元正天皇元明天皇此心成ひとゆて

濱海云園忌乃ころりよ此建立あり水濱海云

ハ養老四年八月三日より給ふあり

養老堂ハ沓院三号あり又淨若居士乃像とて

是ハ長足大臣乃建立武智磨の女

所しよ同敷大長をど母養へあり遠近あ
 りしに明皇后乃由建立ともいへりし書
 成きしに震めて維摩舎を造らるるに
 一十月十日より十六日よとあり記延喜式大
 織冠乃由忌日あり云々由世ハ三年月内
 ありしに舎よは勅使をどとせ給ふ又
 とわらむしよ僧正乃任とて給ふ支維摩
 會ハ敏明天皇二年大織冠山城國宇治郡
 小野卿山階村陶系乃家よりて多武
 例ありしに多武のミよとてありきり百餘の
 人よと法的といふ尼ぞありきり大長より
 我大業と持て右代維摩經といふそ乃經乃
 中よ同疾品あり是代禱備し給はるるやと

外とせ給ふんともいへりしとて一品と備ふるよ
 外まごどつらありしよ病ハなとを給ひ記大臣
 醫首合掌志て生く世々大業よ海嶽とち
 くれ給ふ根原志ありあきハ敏明天皇三年は舎代
 山階寺よてつらめ十二年は給ふとてこを給ふ
 書天智天皇八年己巳年大織冠苑し給ひ
 より廿六年そ給ふりきり文武天皇云々雲元年
 更よりつらめてとてありきり帝王又乃院元
 明天皇和銅七年は舎と真福寺より給ふ
 記は舎九所よとてこを給ふしよ延喜中より
 四十一年よとあり給ひしとあり後そとより後
 徳とありありしとて根原 相又延暦廿一
 年 舎より新給へりしあり 宣方ありし

とて、やうは真福寺としてぞとよありき。此の
龍潭、いらありゆきと関し、ゆりともやけ會よよ
む。一、郷起の山野天神乃由業うけゆきとて一死
神のこことなり。若し三國よらあえ會い真福寺
よらゆり朝乃朝うる事、いけ舎れちりうとて
あそつあまうとてあん根源又むうけ舎れ、僧の
僧の宮中、最勝會乃、儀師とほしとわ、續日本
帝、秋天乃、河れよ志るゆれ撰集、心をさうひ免
會とせゆらゆり

山階寺此涅槃儀ゆゆりて、續ゆき
後拾遺集

真別乃存ありとて、子の海をさうとて、法源
光源
法師

維摩會とよあり
白川殿七百首
新大綱
言願齋

▲五重塔ハ天平二年四月藤乃皇辰乃ひひ僕
射房前文氏乃はゆきとて、法海乃記杖と引を地
ゆきとて、建立あり書、貞觀十八年七
月七日寅乃時は塔震動して十九日ゆきとて、海
ゆりゆり三代実録よらゆきとて

い、遠よ月日乃宮ありむとて、心とけり、法
よゆりきとて、東院山あり、天平室
字八年藤原豊成乃草創乃東院の東堂同
四年惠養大長は造立の西堂室亀二年建
立乃地、法堂とて、法果て、海あり

空乃天

天ハ弘仁年中は弘法大師天川乃乃毎々
南乃堂建立、法海ゆり

天

生... 乃... 賀... 辨... 賦... 天... 現... 修... 物... 餅... 飯... と... 七... 日... 法... 殿... 寺... 乃... 實... 主... 社... 依... 聖... 天... 宮... と... 以... 矣

七十余日... 乃... 實... 主... 社... 依... 聖... 天... 宮... と... 以... 矣

と海女の是れせけりぐあくまをせ給ふ朝野
 門記にさうと記事よおぼしめて勅使とて詳載
 天皇の陵中へ出たのり成しけりせ給ふ其
 みとのり乃朝の聖天皇乃陵のふあはる
 相永兼二年相立棟上朝野同三年三月供
 養ありけし時宇治後

ぬり紀海のちひさしき三笠山記のこゑに表式
 是の弘誓深如海乃心より願海のりけしね
 といふ心ざうくおぼしにふたさうとありと
 多やとあり真義

▲第三乃炎上の後冷泉院康平三年五月四日廻
 廊僧防南大門焼失同御宇再真あり編年
 元治二年二十五日供養帝王

▲第四乃炎上の人王七十三代堀河院寛治元年
 二月東金堂焼失帝王
編年

▲第五乃炎上の寛治元年より九年と終る堀
 河院永長元年九月廿六日金堂焼失けし
 乃眉間乃玉中乃釈迦乃小佛灰乃中よりこ
 り初も其その玉乃より佛像成りし
 後より色かき佛師定朝帝王に
 おひとて威儀とて帝王
編年 柞

骨間乃氷精よりありけり給ひ記と
 又左右前後より孫帝王なるも釈迦三尊乃
 像よりありけり給ひ記とあり帝王
 十六代近衛院康治三年五月四日金堂棟上
 帝王再真あり帝王

▲第六乃美上人王八十八代高倉院治承四年
十二月廿八日平家乃共夫よかりて伽藍一宇
このうらむむ一財のりありとあり清涼院に清水の
学憲大聖文殊乃靈應あり一系院に定照僧都
乃聖依真松房乃松室ありびよ真靜僧都
の表多院大集院松陽院東北院教志院五
大院傳法院真言院成院一言主の社辨賊天
乃宮跡慈愍宮行香社社号炭灰とあり威兼人
王八十二代後鳥羽院建久五年五月廿二日再興
乃信養あり

▲第七の美上人王九十九代後宇多院建治三
年七月廿六日雷火よかりて多ありとあり同年
八月朔日廻祿実檢乃勅使のた大女経長

のり帝王編年い年春宮はんぬく八月と國を
と真福寺火乃事よかりてのびさせ給ひく
十二月十九日自れとせ給ひきる鏡同濟寺
弘安二年二月棟上ありとあり後遠家
遷りせしむるに同九年十月廿七日春日乃
神事乃真福寺よししししなりは事なり
よ志行ありとあり又人王九十九代伏見院正
應四年正月三日院乃所常盤井友よし
幸あり給ひると國大長ら下信事のもの
ひはひありとありけりか春日乃神事金堂より
はりしとあり國を六行幸乃はと毛か
りしとありと國女日神本本津川と度は
ありとありと國の事ありとありとありと

口
三
十五

とくくあてゆのるるむらききるりかぐに廿三日
よ神本本傳より少座座内り記ありけ
まば女七目も神の幸あり給ふ只藤氏の云
卿の神本乃事よりして傳事より後よりけ
正安二年五月十九日供奉乃日時と
けむめ同十一月廿一日無身乃供奉はげ死
まこり 帝王 編年

▲第ハ乃炎上ハ人王九十五代後醍醐天皇嘉曆
二年乃雲南都大系福仲房六方乃大系と確
執の事ありて合我よおまびりりごに金堂南
圓堂西金堂共大乃餘煙とごりきり
王百一代後小松院應永六年三月十一日
藤原院義満云乃由建立は時九佛師を藤

山とぞ関えり嘉曆二年より延寶七年と九二
百八十年か

▲法相宗傳來ハ玄昉僧正由朝よりきて真福
寺よけりて久延事より神皇正統記あり

▲仁明天皇寶篋乃契嘉祥二年三月朔日
真福寺の法師より天皇に御宇よみくし給
ぬと契りし事より記聖像女懸はりなり金
剛壽命陀羅尼經廿卷とて法相宗傳に
りありて四方八十卷よそりきり契りて天
女とひるしはば天女うもその氏を伝
りし事ありて天女伝ひるしとて
ありし事ありし乃これ浦津子の雲漢よ
のゆりて長生代えぬまば芳野の天女上天よ

和 卷三 十一

聖海ひききてみ度神代人としてありぬる事
あり只るるやうに我にけりきり其時乃神
日の中乃や海也の由ハ言出乃由さ由とそり
こよははくへきこまの神ににはくへきこり
はくへきこまの事れまよむの事代より
ねまばくこれこそ累よのみえして神事あり
わさこりりとして續日本後紀あり

真福寺之寺中

中院の屋

中院の屋は春日相傳乃舍利を外傳像あり
只築山乃きく由乃池水乃漸さり地とよ
ぞんく作り

一葉院ハ西乃くよあり寶倉あり

一葉院

一葉院ハ室照僧都乃造立ともやけ僧都之藤
キミやあれ人あり仁教乃菴室よやみして法相
代海多び寛元の末菴よありてハ密灌乃け
はく東寺真福寺乃長勢代經より門中よ
くより経よりが屍更よやく事ととけきまを人指
骨とあるるを法毎と備一切とまをひえつ
ゆよ永觀元年三月廿一日定印端坐ありてハ
こととと遠言よ由を墓よはくこりよ備經
乃声鈴乃着るるをいへりきり僧都幼
のむう一指と女少よぬる事あり今定印よ
よけ一指法淨るぬ事よはくたをそ持經と
る三寶よ供養一盛悔よりきける事あり

又濱乃わづ一舟よのり給ひしは暴風とあつ
う紀海で吹く途どういふ所よ十羅刹女
十人乃童子と化しやまらうよ舟とぞ居よはけ
給ひ紀あなよまやまらうひく人感嘆せざ
給まらやかろやんども人よて海に由まは
つとせは院の庭乃橋よのぼらうよ枯まらよ大
佛頂の咒とくあへらまらうよ枝葉まら
りまら書院と大衆院まららく乃寺
勢職まらおら海に柝真福寺まら勢職は
寶字元年慈割僧都より由ら書後
世よ終む

松室一樂院乃ら

松室貞松房八仲英已講乃後給ひし

仲英まらはは乃の人もゆらう真福
寺の門よ六七歳乃童子よてあそびぬら
けの乃らはらまらあらまらて空晴法一の
そとてらまら人かり心や身とありそまら
やありん僧官と給まら辭して化よゆら
非摩余の室下あまら給まら三度あり
應和三年宮中の論義よまら安和二年
北智の法師乃中あて殺若心経と講まら
よ八千の千眼乃像あらら給まらその講まら
まら若上よのかりて終まら給まら
又慈恩寺山よ入らまら書
のまらまらあり書

八重橋

觀音院乃うの集會堂乃あよ東山堂
乃迄そのなりふ八重あううかごりなり
よのこりてあり

八重^{やえ}梯ハ東山堂乃まへよあり沙石集又東金堂よ
あえり威衰あざう書きてり八重梯とあふ
一本よはく記あうりきるふこそ又東山のあふハ
八重梯ハあうれまやあよのまありとぞうきるこ
もこそありまわ

一條院の由時あうれまやあ乃八重梯と人
のこそ由けりまう成由まへよ侍りなれが
そ乃これとまはりて舟よあとお
あうまきうきばあう

詞花集
いづ^い乃あうれまやあ八重^{やえ}梯乃九重^{くのえ}よあふハあ大^大浦

建久六の東大寺住持住持行業行業此時無後
寺乃八重梯あうりありまるとんて枝よ

新古今
徳比^{しん}侍り

又上東門院とてああうり海けり八重^{やえ}まう
みやあよあうまうは大成やとびんあうた
とんあうりハともあま梯紙ありてハえんそは
あうと海とあふひくああうりあうりわさか
ともありともや女院くまきあうり給ひく
奈良法師ハ心あ記のやうそまひか海と
あぬうとそ梯ハあさむありなりとに侍り
余のあうり給ひくそれより記のこり
七月のあうり宿舎とて海とを給ひま

くありなれバ余野の死所とありてめて花壇の庭
とけあつてをりて 沙石の集には寺志願もぞ侍る
又春日若宮乃神を祓民とゆあり八重栞を
け死とありてそのがせさいもそらんきる 子死
て又若をこしよ侍りたまふとめてて死物
よぞおひひかりは奉大肉よ園しありわきりま
てそ栞とぞめはまきりありてまりあぐら
也るありやありまむ

八重栞なる九重ように侍りて古死於乃まきり
とらんよみく死あぞ法びなる大肉めをば款と
めではせ給ひてはらうらあうまうくへ給ひ
きるあの祓民ハ優よやあり死人よそ撰集のあ
りけりよ

和方の浦よ流りけあぐら流りなる人まきりね若死の
やよみくえらびよは入りそれなり流りなるの林
まよは人少ひなり

花栞院

和室の西よ花栞院乃流あり中節の
花栞院ハ別處飛四僧正乃すまきり西あり
僧正優よやあり死人あてりてまきの時とめて
金剛殿よあけりてまきりて死に目も物もれ死に
やよ少死所にてそ初書の僧正ハ心され給ひて
一集集四年平家の若夫よ佛像経巻のそり
とそらのがらを給りてあをあるあさゆ
とそしひひらりさるぐれきるよりやゆひはきり
流りよらりまきり 平家 叔書め巻よ直福寺

永縁とらあり永四とらとは別人とらも永縁とら八
王七十五代崇徳天皇乃此代の人永四八十八
代高倉院の由宇の人乃やうよらんく侍り
御免金糸和袂集よ右の袂とのせて控僧正
永縁とあり侍乃人侍ごうにさう終べ

勸修坊

山やま野の多たくくののあり
勸修坊の周防得業聖侍乃侍侍あり文治
三の源義経御檀のよりとありて逐電の時
志し乃の侍侍くく給給ひひ坊坊ありあり鑑鑑ひひ坊坊
乃乃侍りよ火乃半侍りよ源義経業
そあ使と侍り坊色をその物ま坊よ今
ありやと

善提院 呼大御堂

真後寺南大門之東よ鐘樓あり
本寺の无量壽佛右方此厨子小生身乃菩薩
児觀音あり麻野園梵後寺乃縁起曰一条院
乃由宇よ朝飲上人也此の善提院ありて
修學地事ありまらあまども存利よれこれ
離乃道とありて種子生現行現行
薰種ふと云論文よ押とらたてお離乃心内
ありうとも於此密修業乃ううよ心乃ま
於事代ありて毎月物後寺よ侍りては
奉代をさくよ三とせ代後寺寛弘四年十二
月晦日よ侍りて我道心用發と約る奉りて
善提乃本誓ありはれとむりく又善提

もむいりるる一怒死又むいりるる一怒死は善
徳と稱べに我よ善徳心成し成け給へん徳は
善徳をわけぬ善徳は山嶺成志のびく入りよ
あり乃京乃成已麻野園乃松陰中て目の
つきよりおひひあぬよ十二三なるのり
乃事りて我よ善徳心成し成け給へん徳は
善徳とまげくひとあつきありなりひさよ
ともむいりるる寺よ入り死を後上人よけん
なり一奉山成くもあつて六とせと
長和二年三月十八日よ童子今とつて
るる一とも善徳心成し成け給へん徳は
善徳心成し成け給へん徳は善徳心成し
逢事り一麻野園の松乃上よと死七日と
ひり死給へん一也ひりて息絶ぬゆめごとくめで

とより捨入りぬ上人心よおまやうはひりり
とあつて入り世後つたあつてうり死目成し成
とそりりわくつと長衣寺よゆりて善徳心
とあちあちく念誦してわたり善徳心成し成
童子れ徳乃りりより觀世音乃正徳心成
ありて起事りて正面の御戸乃上よわたり
おぼしてはあつてうりりり僧乃ひりり
は六とせうせ後入るは正徳心成し成
事り給ふがやとひひあつて成し成
は正徳心成し成け給へん徳は善徳心成し
徳心成し成け給へん徳は善徳心成し成
徳心成し成け給へん徳は善徳心成し成

音の海に波菩薩乃利生方便と云ふに
一親たり多しはくは死なりて當院よ安
坐せりあり世儀よ兜觀音也り上人物ハ
都率乃行者なりは後ハ觀世音法念ト忽
て死期成ると信終正念よとあり法と云ふけ
於其後補陀洛山よ生じんと門や子ども
しげ給ひむると云や
康野苑
縁起

大業院

傳人國大業院ハ堀川院乃此字寛治元年二
月よ遠立あり今乃而ハ元真寺ハ別當乃住坊
より一孫定院の孫也やむり乃大業院の孫ハ
無福寺寺院乃門跡雲院ト云僧坊乃なり
あり本教ハ隆孫大僧都也ト云龍少將教承
政兼朝臣乃長男あり康和二年七月十四日よ逃
化ありて大安寺へ葬祀と乃所ハ大安寺觀音堂
乃水のくよ松乃一本生り塚也なり

猿沢池

無福寺乃南のありありは池乃西よ
室女乃宮東よ衣け此柳也といふあり
揚貴妃乃榻ありむり無福寺よ玄宗
法師也といふありはあひしあらしめれ
とて揚貴妃トは衣法をける也
猿沢乃池ハ天竺の猕猴池と云はれり此の衣
ありとぞ池の西水乃方乃松并坊ハ猕猴乃
秋像あり弘法大師乃作あり俗説云れく
あり柳下天竺毗舍利國よ猕猴池ありその

池乃をくぬ西よとらく乃様ありて如來此
鉢乃りりく樹よのかり響とと此池の遠
くぬ南よびつがま乃様ありて佛よ響とさ
しげも此西池乃西北よ獅猴乃狀像あり
西域の獅猴池のなりありて目連者無所
有所定よ空とまつよ衆乃あり声様乃を
つぬる声と取よ入く定錢ありまきく
や我唯識むうあつれみとよはうう復はる
らぬめありまりつぬるちまきうさよ
てんくよづひ殿上人あづもよづひまきやあ
はらりまりそのあぬやまみととく記りな
くめでと記物よまんおひなまりけりみと
めとつり叔後又もめはらりけきとく記り

あこころやおひまり畧世よぬ海に記
まきばよるみううよまきと様乃池よ身
まげてまりくまげはとも由門をまき
しめまはりけり成事乃は乃でありて人
乃そりくまきば園めとつりまきと
つ道り給ひく池乃なりよ海存みあり
給てんくよ舟よ海せ給ふ

柿本人丸

一乃も子り袖とこれ髪乃様乃池の
やよある時よ由と
様乃池は乃れたこみとまのつ氷ぞは
やよみ給ひり叔い池よとせしを給て
んくおつ由一けりやとん

大和
物語

東大真福ありて中間押明乃門の南

車輪橋

乃門より北橋乃ありて比のふよ雲井坂

あり

奈良景

ありて渡る人かき渡りて行物の海よりそより東の橋冬宗

ありてぬりありて人ておやうくもたんとおわ

み乃ぬれやうり死乃あり

澄月 秋枕

同 雲井坂

村西の晴間より越よ雲井坂二並れ山の終ありて是重

山城國の山よ大和山ハ南よあり小坂也

山よ支取國乃遠あり大和國乃在代わ

り

大和國

大和國ハもと日本國乃地也

へば大和一ヶ國乃在あり

新日

日本國と山ハ大已貴乃幸魂奇魂日本國三

徳山よすみ給んと宣ひ死もあらうのあり

家よ三幅乃神とありありけりあり

耶麻止やうけりて或ハ山よ住止乃ゆんあり或

ハあめはけりわきそて山よ出淵うらう山と

住家よてゆりての終ありけりあり

新日本紀曰

山戸やうりありハ山城よりありて住人あり

新日本紀曰

延喜開題記

山ハ山よのかりよハ終ありてあり

和 日本紀曰
延喜開題記

大日本豊秋津洲と云ふは陰陽乃二神也
 一曰とみ給ふ乃時まびらめよ大目
 津洲と云ふ給ふ神代と云ふも也
 中や云給ふと云ふ大ハワガ
 國と云ふと云ふ心あり
 虚盈日本と云ふハ饒速日
 給ひ一耐ぞうまのや
 秋津洲倭と云ふハ神代
 乃乃云給ひ一耐ぞうまのや
 晴給乃云と云ふは
 紀日本

秋津洲乃國と云ふ

倭國と云ふハ曰統よりあり乃人我國の云と

一曰行よ我國と云ふハ一曰我のハ

倭國と云ふハ一曰

天御虚空豊秋津折別と云ふ
日本紀

浦安國と云ふ

細文千足國と云ふ

磯橋上秀真國と云ふハ

乃云の云と云ふ給ひ一

王壩國と云ふハ

也云あり
日本紀
曰統曰王壩ハ倭あり三橋神すも

終ハ云あり
曰統曰國と云ふハ

西ノ校ハ一万余七千九百八町九段百八十歩

倭路

傷強ハ聖德太子此年廿四也... 道ハ芳野乃通...

中津道... 乃樂 櫛...

草報 友海也...

平城 平 那羅 結樂 寧樂 乃樂 櫛...

万葉集日... 奈良...

本紀紀書... 奈良...

新垣安亮と妻乃若田媛也...

也史ハ也... 大坂...

事... 大坂...

と大坂... 武道安亮...

事... 大坂...

昔... 輪轉川...

事... 武道安亮...

寢... 武道安亮...

鎮坐... 那羅山...

於軍... 那羅山...

けり... 那羅山...

袖中... 卷ハ酒器...

祠林... 又青月...

らまや酒野在家とにせりありてむじう辛
死とせぬぬべたり一國へありて後よ大元を
由ぬ死あり先奈島坂殺若衆乃二月乃道り
なり成り城擄とて由へてありてり後兼
十二月廿八日乃幸ありて軍兵よ入て
死ありり大將軍平重衡口例乃大い
りて知とるまう後よ酒野在家よとけり
ら成りや死りけり

般若寺 寺領三拾石

般若寺ハ聖天皇帝乃所建之勅書乃大般若
經地底よ納めさせその人よ十三重乃塔
て給りり般若寺と号りて説あり
和列般若寺ハ觀賢僧正乃開基と

書よるり本る文殊大士ハ忠性律師依
念戀とむりつめむとて文乃文殊菩薩と

此より寺よと人給ひ

開山觀賢僧西ハ奈氏めてさね文乃西の人

聖寶乃由才子より延喜廿一年勅定よりりて
弘法大師乃定應とひり死由とてとけり給
ひよ由髪とてとており由けり
そのまより又由門より由と給ひり
乃由衣 威衰記とありてと給ひり人あり延喜
十九年醍醐寺乃序をよりけり職乃らめ
延長三年僧正よりりその年乃六月十一日
とりてと

炎上の治承四年平の聖衛乃共火よかり

煙と多り至後文永年中は西大寺の真正菩薩
乃再興あり年深て延徳二年英上して經藏
掃門のそ沙へ六文殊大士經藏よ申へく
年久しく強くあり今乃堂の寛文年中は伊具
▲むりい眞言より一ツ文永年中よりはう津宗
より密持より大塔乃經出身とくくを給ひく
あやふ紀出心乃ちとのぐれを給ひ大殺若
經同控ありよりくハ太平記もあり

山寺乃山寸町乃うち本錢を於奉成禁制
乃宣下あり貞觀五年九月廿六日
三代
實録

是より南よ三弓平郡邊あり
三間平郡邊

平野乃三間平郡邊と記 威裏のこまをり石乃

よりりとなあよこそその頂上の石乃蓋あり
より俗よ笠平郡邊とよな乃ちりあはは
行無常乃文右よは如來涅槃の文紙よりつを
より石剛寺の勸標乃こそとよまつとま中川
寺乃實範乃こそとよまつとま

恩た存墓

西よひひはえて今此大道より寸町あり
ひりよびまの交ひのた存乃墓のあとな
アとよひ今乃大道の奈原坂のよびまの
宮乃りよりハ殺若御よりやあぶらにま
恩た存長頼ハまあ乃ひくきにまがれまあり
修ひく大和造よちり給ひハ保元元年七月寸
四月高と一廿七めてを所せ給ひハ

一より此同女日突奮乃実験とてぶつて
ありありけつその西六條上郡川上村殺若野の
又三條より大道より東よ入幸一町ありあり
因律師実証得業乃墓乃於ひぐりゆめは松
乃とく保元物語よりくくりて後治承二年
中宮の産乃由乃りよ大政大臣正一位と送り
給ひり 平家 延宝七年五月廿四年の

奈良坂

奈良坂癩人

乃乃はよりよありらむ癩人の住宅と
あり

むうはよの長海をりまそ行歩をくふふれは

袖あひもふらげ日銭給付と心どき物色く
ありけり癩人ありその此熱性律師と西大
わぞ位おりらばわら癩人銭と給ひく
あつれがり曉にあり坂乃のありよありて
人城よりありおひまり市中よとんと記書
バ又おひくくれがいありよとありえ一風
暑よととありあり癩人儀決の時ありあり
我多うむと又は世果より南まで師よは
学恩と報トちん教よ一癒とあり一癒
一ととんとありとありとありその後熱性
師よは一人一人の中よありありとあり
於そのありとあり一癒あり時の人癩者
衆ととんとあり熱性律師の住宅の

三和塔婆二十基大滋經一十四卷徳田乃
一百八十九和嘉元元年七月十二日とり
とる年八十七書

依保川

今新庄町乃石橋是あり水上を春日
山より出て西を眉間寺此南乃梅り
河を過ぎり眉間寺乃山号と依保守

万葉

依保守とて此乃向よと幣の妹とあり

待賢門院堀河

梅柳とて此乃依保乃内よあり

覺雅僧都百首

後京極百香歌合

依保川乃海なるを衣ひとけぬあり

依保殿

万葉

た大長屋乃依保の宅あり

同

あまのうらみは此のあり

紫花物どりし東野乃表よりあり

よの今い三徳中物とてよにあく

是さ海ありた乃物とて此は

は乃中納言よとて此乃春日

を捨て海にり乃とて此あり

死までめてとて海にり

梨子原

依よ内侍原町と云ふも海草もや海との由云
あつらひ二系乃大張乃南よあり

梨子原と云ひて遊衛府乃領地なり春日系の
物使も山城國運乃表皇御教よ一徳と由
正申れ目あり乃梨子原よはあまは装束を
印くもそ多し山階寺乃水あつらひよひと終
て板殿乃座よは支神あ乃總式と云り久
りもそ細とと紀りもりともありて梨子原
よはもそてのをもそぐり解あそび終やとあり
又東大寺八幡菩薩と宮南乃梨子原乃宮よ
新宮と云りてこはもりたとあり
はああり

江家
次男
本紀
日色

夫小

あつらひり持もり抱もりあつらひもやあつらひも
あつらひり持もり抱もりあつらひもやあつらひも

率川坂本陵

林乃小張韓園乃社の真れる念佛寺の境
内よありやと古巷乃はあり韓園乃社
ハ園韓神是若無難あり
社
依よ水年

率川坂本陵ハ和別添上郡よあり延喜人王

九代開化天皇乃陵あり由宇六十年四月九日

年乃十月春日乃率川坂本陵よ築つと由
延寶七年迄凡千七百七十六年

率川宮

率川宮の開化天皇春日此地に都とす
給して率川宮と云ふ日本

古卷に云く率川宮の後の今此に
守町ありて率川乃社あり儀は子守の宮
と云ふは知りよ率川乃宮れあり

率川社

率川の社春日乃由や一ありふを御引のけく
いさぐつとくらんぞの社ありははるり天
下はらうはむととと給ひんよの由りんわ
延喜抄撰集 率川よまに大邦御子社三座
乃の社あり小社二座其乃方の春日大明神
乃方の位者大明神あり苗社と正一位と云

三枝祭の率川

三枝祭の率川乃祭と云ふ春日祭此乃目
と云ふかつとく神祇令よのまに三枝祭と云ふ
るべくは四月までありし根原令義解と云ふ
乃祭よ入く三枝祭の率川祭と云ふあり延
喜抄よは祭四月あり是三枝祭と云ふ其三
枝と酒踏よりけりゆへよは名あり
南家乃に傳ふ率川の社と云ふ大長是乃建立
と傳ふももお存けりゆへは故の令と云ふ書ハ
漢海乃のちつづきく類考年中よ奏あり
是乃の大長と漢海乃の曾孫と既令よ率川
社と傳ふれば是乃の建てよはありん
くつづきもや類考とありんやありん

社は是る乃再真一給ひきると遠くは
ひく花はけり根原二枝こころいふ
ふさふさともふありは茶後果むる時地と

白川登百首
えねりこころやゆつんか川乃社
大和国

率川河波神社

は社の率川大和国率川河波社とは別家ありて社名
帳もそ別家よのせまきこりひは色乃不とも志
仁壽二年十一月大和国率川河波社より
從五位下錢さげ給ひり一 文徳実録
えこりくあひてあはるくこにぞうねべ一

餅飯殿町 付大宿所

りちの夜町と名宿貴島郷とよふ是はあめり

みくとのゆ字の國司和氣利実の五月一日の夜
蘇乃依依とゆきよりは若ありき後宿乃
安支天と勸誘の時餅飯乃依依とゆりり
餅飯殿乃若ありりり一 宿乃辨財天の和
よあつり根むり一 役行者大峯乃道徳ひりさ
給ひりり後中給く椿葛通路とゆりり
僧正入峯乃若ぬるとゆりりさげ記史よひりり
とおさる給ひりりよ苗町乃僧七人僧正乃厚
恵ありりり依依より給よ二度ひりり支給よ
り為山ははひりりそれよりおほひりりり
んく山上乃峯入今よ依依と餅飯殿
まてその依依乃りり一 旧例よ
百歳乃年ハ給れども聖実僧正乃威風

佛寺より行へんこと或人よりせらるり
園控ぐこそり記ゆり

元真寺 寺鎮五拾石苗代真言宗

元真寺ハヤウ入果て五重乃塔一基大日如来
以まの又堂一宇観音菩薩とよんよりハ観音
乃像ハ長谷乃観音とせしりハ靈木のヤニの
まれよそそまねまば長谷よゆりてぬるハ
まのハ観音よゆりてぬまハ奉乃のあま奉りま
らまよゆりハ記ハ是乃寺ハ撫右天皇四年
高市郡飛鳥乃地よそそて造ひく 日本その
四門乃額ハ南よ元真寺北よ法満寺東り
飛鳥寺西よ法真寺とくけりまそり又建真
寺又建通寺と色ハハり 玉林抄 山吹礼記 其後人王四

十三代元明天皇和銅三年高市郡藤原乃
宮より郡城ありまよゆりハ目ハ門飛鳥寺
ま行幸あり給ひて是佛法元真乃場あり
件乃寺奈良まよゆり造ひんと勅言ありハ
一記三代よりハ帝王編年あり四代元正
天皇靈龜二年五月元真寺造ありまよゆり
た新乃六五四物あり 續日 本紀 又同中宇類考
二年八月法真寺と新造まよゆりハ
より 續日 本紀 靈龜 二年より 養老 二年より
た二三年と造る靈龜二年よ元真寺と
めて養老二年よ成就とまよゆりハ
め給へ 元真寺法真寺 異名同寺 高市郡元真寺
八田郡ありて本元真寺とハ新造あり

よのあらうと云ふそく新元真寺と云へり帝壬午年傳
像ありは新元真寺と云ふそくそくや玉林靈龜二年
又延寶七年迄凡九百六十四年なり

極樂坊

元真寺乃のよありむじうの元真寺のち
中よて侍りいげれ乃の年よや西大寺
法流ありなり

極樂坊の智光法師乃あり居給ひ一先極樂坊
先法師ハ河内國乃人書或ハ大和國乃人と云
袖中 じうや海女のよは極者ありなり家よハ山と
は死池とありいそまうはしりきり門守乃極乃子
ありきるまうハの麻福田丸と云ひくありきり池
乃のりよいなりて芥淺はきけるが極者乃のり

娘表いであそびきるをらうよりいさうハ
をり心つ死行痛ありてを幸と云くをせ
とされバあや一と世ふらうよあぶらよとひけ
まばらうハいさうはくはよと云くある極
幸ありぬぞ我子れ志ん幸と云げくはに
母も又病ふゆぬと時よの家乃女房は極の
屋よりよきりきるよ二人乃のやと云くを
んそあや一といはるとよ極乃のりきるを
ゆひまそとあうと云く乃の幸の侍りと云ひ
るげくよらりておやこ志んたと云くありと云
女房よりひくはと云く娘表よりくおは極表
あられがりてやと云く幸もや病はあやと云ひ
くまばらうと云くおやもくこまりよりあはて

如
大

疑て抱くひあぐりて倒入るるよりぬ娘衣
 のあやまのびくくみあぐりよつ所むよ子かざん
 口申しあむおべーしうらゝあむあびくく一言よ
 むらひの又いさく我父母あん事いりし其後
 はふ事色少法せさるんは文字あうあらん
 ころ一學問まべーし童又學問して抱えあはれ
 よありぬ又山志のびよえよまらうはまらう
 法師よあるべーし別き、ぬ又少そのころ
 法師乃ちらげんあやし心運大殺意をこむ
 ぬしいのりともいせりやうせりらるんとも
 ねまごぐひてよみの又いさく修行せし後
 果をいさむやうまらう逃げく身とひん修行
 よあつて娘衣あつて藤乃ちうぬと調て

せうす所務とひみけうぬの月を代さて
 行しありくわんごに娘衣世よあぐりよれば
 そのり我因て道心とおしひんよ極よと称
 ぐひてさうと記ひるまそさうをぬやみも後乃
 奉ももたに行基菩薩と導師ようけり礼盤
 よのほりていさくあうくぬが教務よれぞぬ
 ひーささうぬとひひくぬらちてと事色
 いさくさうぬ、子あやしとてとひんれそ者
 智光のうらうらむと狂生まんに縁ありしもの
 所はれ世間よ貪着して惡道よゆんせ
 せうくバ我方便よそくくをあらんいれり
 むんありたり娘衣の行基菩薩乃他修行基
 文殊よりゆあくご丸の智光より智光

行基菩薩の樹に坐して時行基菩薩
 波に乃橋とけりり方給ひしが智光法師の
 舟を折ぬる小菩薩なるをいんくせんが心
 也やとこれんあみてぞをりれきり智光法師
 多きととるが地へゆり礼拝志して悪を断し
 たりきるとぞ 万陀 礼拝あり人よてあり礼
 ばもや阿弥陀佛の爲をとも感得とくまより
 ▲高野の淨土万陀羅あり 百善曰方一尺二寸本朝
 寂初曼陀羅の儀は智光曼陀羅といふ智光
 法師礼光法師とて智行やんども死二法師
 ありたり礼光法師年之けての無言説也
 ぶづり終よとり給ひたり智光法師法行と
 せりひしと書記乃臨終の心と悪ぬくこと也

ゆきその生而法とるむいえあるゆりて法
 うはひては事とぞいのりきる一教友とんきる
 よ礼光法師乃りるとにゆりて海見えぬる小
 舟に坐する而七寶莊嚴五趣乃光明とま
 ぶづくともありむいりありあるまばくくハおのり
 ぶや礼光法師是ハ極楽世殿よぞゆり
 けり我は年月言談と施して觀樹の座と
 ともれゆり 功德 よりてくめでに
 とハありゆれ智光法師志ありバその觀
 相乃やう法とるめ給へりとひけきバ礼
 光法師志ありバ阿弥陀佛乃法とる將
 てもよりあんといさあひ行と善ひが
 妙の阿弥陀佛よ法とる勝法居し掌と

ありせりしなり事こそゆかりの侍りしと云々
有りしついで佛の宣く極樂世界ありしに
巖と觀相とよとしてえりしなり
法師莊嚴なりと云々此世界にひりけ
でり危敷の觀樹よりまひゆやと云々
一尺の佛の掌とひりしを繪しし
おと現ぐ後ふと云々
さあよなりありけしむの浄土と云々
所よりありし今當所よりあり
人と云あり應永廿四年十月十四日
で、曼陀羅ありしに佛舍利と云々
乃事と云々
金師の西方極樂淨土佛乃た賜士乃書

畫みと化してうに繪り舍利の佛乃た
小淨土と現ぐ後ふ時淨土衆生
なんそのあるしよとして繪り
乃舍利ありしと云々
曼陀羅の形より觀のせし
仙光院

あつてつくりしありしなり
仙光院の礼光法師の繪
南よありて智光法師の繪
乃肉よありしと云々
傳通記等よの禮光日本住持傳
まことりし二法師の智光よ三輪乃深
きてやむしと云々

ひける書は二法師の大化年中乃人より
り・水鏡よかき傳れども大化乃年の世七代
徳天皇の御宇あり歎書よらうらば四十
天皇れ御宇乃人と云くこりは法師をより
譽ハ三論をうけけられり今の三編家皆
乃と云うぞ傳歎書

伏塔院

伏塔院の元真寺の院内藏命僧正乃傳院
藏命の秦氏泰濃の必名勢郡乃人年十
て元真寺に可羅大法師よはくして若野山の
若行又法相大業法海をび月乃上統よ及山
みく入てとこるひ下統よは本寺よりりて

ほろふ又物鏡らふは此中よ佛舍利一粒と云り
その後乃上よ一粒と云り靈異志ありよあり
つ是天長四年僧正より年八十めあてこの
院よとつる傳院よいりて同寺の僧長守石
上寺よりあるよ音聲院中よと云くこり
新乃むらひ天人の樂よを傳力後日又世は
へて法海味嚙と云あり獲命僧正乃りて
けくまうり人よ獲命味嚙と云ひける

禪院寺

は伝と云うも元真寺に別院傳と云書
よ右京よあきと云のりりしんく傳れども
一郡山邊をどまはは伝ありと云一
往ありありり

禪院寺ハ元真寺ノ別院アリ道昭法師
より海朝志テ本元真寺ノ東南乃モ
經論と徳ありとの事あり
山代ノ氏ノ寺アリ乃ハ附カ子爲奏園と稱テ
乃ハ在系ノ禪院と建立スリとあり
奈良飛鳥ノ元真寺アリ

元真寺ノ里と云ハ
古ノ飛鳥ノ里と云ハ丹波ノ里と云ハ
乃ハ今ノ飛鳥ノ里と云ハ
飛鳥川
衛ノ元真寺ノ西ノ里と云ハ

あり奈良乃飛鳥川と云ハ
乃ハ今ノ飛鳥川と云ハ
乃ハ今ノ飛鳥川と云ハ
乃ハ今ノ飛鳥川と云ハ
乃ハ今ノ飛鳥川と云ハ

十輪院

元真寺ノ東ノあり衛ノ十輪院
十輪院ハ弘法大師ノ開基ト云ハ
乃ハ今ノ飛鳥川と云ハ
乃ハ今ノ飛鳥川と云ハ
乃ハ今ノ飛鳥川と云ハ

銀

少、泉好まじ一宗とてありき

は南の南光院といふあり元興寺の道順
法師のまゝありしとて道順の文書四年中
元興寺より入寂のより新書よりあり
そより十七年と経て靈龜二年の元
興寺建立のより續日本紀のあり本元興
寺より新書よりありしとてあり
れりてありしとてあり

和明曰跡函考算三卷終

